

## ●平成15年度自給飼料品質評価研究会 —自給飼料の新しい栄養的価値と機能性—

平成15年11月17・18日と、那須の畜産草地研究所GGホールで140名余の参加者を得て、平成15年度自給飼料品質評価研究会が開かれた。テーマは、「自給飼料の新しい栄養的価値と機能性」で、粗飼料及び非粗飼料性繊維の新しい栄養的価値と機能性についての研究の紹介が行われた。

第1日目は、北海道大学の田中桂一先生からは、最近注目されている畜産物中のCLA(共役リノール酸)の機能性(抗ガン作用、血中コレステロール低下作用、成長促進作用など)及び飼料、飼養条件による牛乳中含量の変動について最新情報が提供され、放牧などの飼養方法や給与飼料によって、食品としては唯一のCLA供給源である牛乳や牛肉中のCLA含量がどう変化するかについての研究の重要性が指摘された。

九州沖縄農研センターの常石室長からは、牧草多給牛の肉には脂肪酸燃焼機能成分であるカルニチンが多いこと、また、放牧飼養または粗飼料が多給された牛肉にはCLAが多いこと、脂肪酸組成のn6/n3比が低く、食品栄養学的に好ましい脂肪酸組成を示すことが紹介された。

帯広畜産大学の花田先生からは、北海道の農産副産物であるポテトパルプサイレージは下部消化管の微生物活性を高め、乳酸菌やビフィズス菌の数を増やす機能があることが報告された。

埼玉県熊谷家畜保健衛生所の小谷技師からは黒毛和種肥育牛の出荷前5日間、稲わらのみを給与すると糞便中にO-157排菌が見られなくなるか数が抑制されることが報告された。

自給飼料をめぐる最新情報および今後の研究展開について、畜産草地研究所、村井室長より、飼料調製分野における今後の研究展開の方向について、バクテリオシンやプロバイオテック機能を持った乳酸菌の利用によるサイレージの栄養・機能性、長期安定貯蔵性、安全性を高める研究の重点化が示された。

2日目は、日大の阿部先生より、「NRC2001年版における新TDN含量推定法の検証」、畜産草地研究所の梶川 博主任研究官より「Nonforage FiberとNonfiber Carbohydratesの機能性」、肥飼料検査所の平岡久明技官および畜産草地研究所の永西 修主任研究員より「aNDF分析法を用いた新しい飼料分析基準について」など、新しい提案を含む話題提供がなされた。

その後の総合討論では自給飼料品質評価研究会の今後のありからについて会議参加者にアンケートをとり、研究会発足の契機となった近赤外による飼料分析の現状を把握して今後の飼料分析の方向性および研究会の性格、持ち方について検討を行うこととした。

(飼料資源研究官 落合一彦)



研究会冒頭で講演をする  
北海道大学 田中桂一教授



平成15年度自給飼料品質評価研究会 会場風景